

# Open Talks!



秋は木の葉が綺麗に色づく季節ですね♪お天気のよい日に大江戸歴史散歩へ行ってきました。

江戸時代に掘割を整備し、物流の拠点として発展した江東区は、船とは密接な関係のある地域です。現存するわが国最古の帆船「明治丸」や「中川船番所資料館」などの船の歴史を感じることができるこの街は、江戸時代から現在に至るまでおよそ400年の間、川を中心に発展をしてきました。歴史を調べてみたところ、新砂センターはもちろん、現在OTS全てのセンターは埋め立てされた箇所に立地していることが分かりました！OTS周辺を歴史をたどりながらご紹介していきます。

## ‘時計修理本格始動’

新砂センターではジュエリー修理工房を構え、現在20社以上の販売前の不良品修理と販売後の顧客の修理を承っております。11月より時計技師が仲間に加わり、ジュエリー、アパレル修理だけでなく時計修理が本格的に始動していきます。



時計技師が加わったことで、時計プレスレット研磨や時計電池交換修理を始め、動作確認も含めた修理の更なる短納期が見込めます。1日でも早くお客様に届けられる様にすることが私たちの理想です。更に現在、精密機器の取り扱いが出来るように時計工房も準備中です！今後もOTSリペアチームは拡大していきます！



※研磨中



※ポリッシュ・オーバーホール修理

## ★ 物流の街・江東区 ～いざ大江戸歴史散歩へ～ ★



### ① 新砂橋



新砂センターから自転車で約2分、ここから運河散策スタート！



### ② 州崎南水門

明治時代中期～大正時代中期に埋め立てされた。産業革命の時代が始まり、この時代から江東区には多くの工場が立地していきます。

大横川と汐浜運河をつなぐ400メートルほどの運河が大横川南支川で、汐浜運河との接続点に設置された防潮水門が洲崎南水門です。高潮や津波の被害から江東デルタを守る水門のひとつで、江東区が管理する水門です。



### ⑤ 屋形船のミュージアム (江戸前汽船ミュージアム)

関東大震災(大正12年)により多くの被害が江東区にもおよび、区画整理により現在の江東区の形となってきました。最近併設されたこのミュージアムでは、屋形船の歴史を学べるほか、もんじゃ屋形船を体験することが出来ます。もんじゃ好きの方は是非足を運んでみてはいかがでしょうか？



### ③ 鷗橋

江東区の塩浜と枝川の間位置するのが汐見運河。中央に首都高速9号線の汐枝橋が架かり、その西側に鷗橋が位置する。護岸も親水護岸として整備されている。運河の十字路、水の流れがどうなっているかが興味深いです。

### ● 砂町北運河

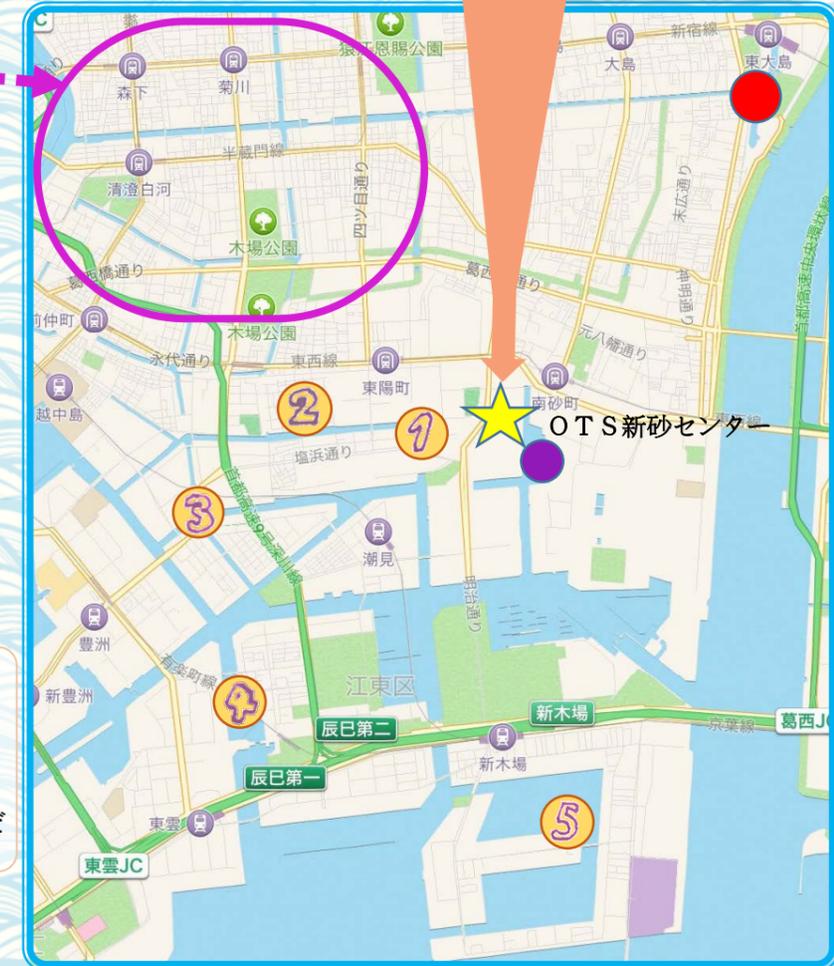


新砂センター屋上からみた東京湾マリーナ、センターのすぐ横の小さな運河(砂町北運河)。撮影当初は写真の通り船が停泊しており、マリーナを経由して東京湾へと繋がっていましたが・・・なんとこの撮影の後、1ヶ月も経たないうちに埋め立てが始まりました(笑)。時代とともに進化が続いていくことが実感できます。

### ● 中川船番所跡



約400年前、徳川家康によりつくられた江戸で初めての人工運河『小名木川』川の駅として最初の物流拠点となり、江戸の繁栄を支えていきました。現在、関所跡の付近には関東や江戸の水運、江東区の歴史・文化が学べる資料館もある。現在ではその広い河川敷を利用してハゼ釣りやカヌーなどが盛んに行われています。



### 編集後記

今回、運河巡りに興味を持った理由は、趣味が釣りであることと、昔から自転車で散歩することが好きのためです。私自身、運河での釣りは未経験ですが、運河には鱸(スズキ)という魚が東京湾から多く入っており、有名な釣り場を巡ってみました。今回の運河巡りで、一番楽しかったことは、運河沿いの遊歩道の散策がとても気持ちよくて改めて水辺の心地よさを実感出来たことです。ただ、橋が多いことでup/downが多く、50歳手前の私の膝にはかなりの負担でした(笑) その昔、物流を担う水路としての大切な役割を経て、現在では都会の雑踏を癒す役割に変わってきたのかなと勝手に思い、とても感慨深く感じました。これを機に自転車散歩でもっといろいろな場所に出向きたいと思えます。(新砂センター・岩沢)



水門を挟んで湾から運河へ東雲と辰巳の間にあるのが辰巳運河で、ここに1962年に設置されたのが辰巳水門です。運河沿いの街を高潮や津波の被害から守るのが役目です。台風などの自然災害時、水門閉鎖時に内部の水をポンプで強制的に排水する施設が水門とセットで必要になるため、辰巳水門には辰巳排水機場(昭和39年設置)が隣接しています。

### ④ スカイツリーをバックに眺める『辰巳水門』

